

アコースティックアストゥーリアス 4 年ぶりの 3rd アルバム

「Legend of Gold Wind」

前作「Marching Grass on the Hill」リリースから 4 年以上、その間に「樹霊」リリースやエレアス結成・ポルトガル遠征などもありましたが、アコアスとしてはライブも少なくファンの皆様には大変お待たせし、ご心配をおかけしました。

ライブの度に新曲も増え、新作をリリースするのに十分な曲数とポテンシャルも維持していたのですが、中々新作発売まで到達出来ませんでした。

端的に言うと、エイベックスとの契約継続に十分なセールスを得ることが出来なかったということでした(^^;)、昨今の CD 不況もあり、企業として利潤を優先するエイベックスさんの判断は仕方のないことかと思います。ただ現在では在庫は一切無くなり、中古盤にはプレミアが付いているそうです(再プレス希望はエイベックスさんにどうぞ)。我ながらあの音楽性の割には(^^)かなり頑張ったのではと思います。

メジャーリリースのおかげで、アコアスの知名度アップにもつながり、着実に前進出来たと感じています。これもひとえに皆様の応援のおかげあってのことです。本当にありがとうございました m(_ _)m。

さて次なるリリース先を求めて、検討を重ねてきましたが、結局初心(アコアススタート時)に戻り、自主レーベルからリリースすることにいたしました。

昨今は配信中心、CD 不況、決して楽な時代ではありませんが、こういう時こそあえて CD でリリースするという意味を重視し、自分たちの納得のいくものを作るということに徹底的にこだわりました。

アルバム全体のの流れにこだわり、シリアスな緊張感が持続するよう、厳選された楽曲群が並びます。ジャケットは前作に引き続き大嶋二郎氏のデザイン。引き続き登場の” 謎の玉 ” が黄金色の風に乗って、内ジャケでは遥か遠く宇宙まで飛翔、どこまでも続く文化を象徴したスケールの大きな作品になっています。

各曲の細かい内容は上記チラシの解説をご覧いただきたいのですが、メンバー一同、練りに練った自信の作となりました。筒井、川越両名の楽曲も増え、よりバラエティに富んだ音楽性を感じてもらえると思います。

新加入のバイオリニスト、テイセナも短期間ですっかりバンドに馴染み、しっかりと存在感を示してくれています。そしてリコーダー曲の比重の増えたことがアコアスの新たなカラーとなったようで、より” 大陸 ” 的な異国情緒がアルバム全体のイメージ統一に貢献していると思います。

ま、難しいことは抜きにして、皆様の思いのままアルバムの流れに身を任せていただければ幸いです。

下記配信サイトでもお買い求めいただけます。試聴も出来ます。

amazon、iTunes Music Store、レコチョク(カタカナで検索して下さい)・・・etc. レコチョク用 QR コードです。フルや着うた用ショートもあります。

プログレマニアの方は CD でお買い求めいただく方がほとんどだと思いますが(^^)お初のお客様、気に入ったら 1 曲ずつでも購入出来ますのでよろしくお願いします。

今作の完成を記念してグッズをいくつか制作いたしました。→グッズ紹介ページへ
今後とも応援どうぞよろしくお願い申し上げます m(_ _)m。

* アルバム収録曲のうち

4 曲目「凍てついた記憶」PC ゲーム Lamento BGM より

8 曲目「紅蓮菩薩」PC ゲーム装甲悪鬼村正 BGM より

ニトロプラス / デジターボさんのご好意により収録させていただきました。

ありがとうございました！ (c)Nitroplus / Digiturbo



アコースティック・アストゥーリアス4年ぶりの新作
レジェンド・オブ・ゴールド・ウィンド
アコースティック・アストゥーリアス
 大陸からの熱い風を受け、スケールアップした入魂の3rdアルバム



大山曜 (Gut Guitar)
 川越好博 (Piano)
 筒井香織 (Clarinet, Recorder)
 テイセナ (Violin)

Legend of Gold Wind /Acoustic Asturias
 Asturias:AS-0002

2011年4月10日発売 価格:2.625円 (税込)

<Discography>

2011年4月9日(土) レコ発ワンマンライブ

開場 17:00 開演 17:30
 前売・当日3500円 (ドリンクなし)

【一般発売日】2011年2月1日(火)より
 *整理番号順入場制

【会場】池袋シャロン・ゴスペル・チャーチ
 〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-2-1
 2Fチャペル 03-3980-7930
 池袋駅 西口より徒歩4分(立教通り)
 地下通路C3出口を右へ1分

出演:アコースティック・アストゥーリアス
 ゲスト:大谷恵子 (Oboe)

【お問い合わせ・チケット発売】

Asturias通販 asturias@music.nifty.jp
 AZURE Tel.03-5412-0744
 イープラスe+ <http://eplus.jp/sys/main.jsp>

<http://www.tripmusic.net/asturias/>
<http://www.myspace.com/acousticasturias>



Marching Grass on the Hill
 avex io
 IOCD-20184
 ¥3.150 (tax in)



Bird Eyes View
 POSEIDON RECORDS
 PRF-023
 ¥1.575 (tax in)



樹霊
 In Search of the Soul Trees
 POSEIDON RECORDS
 PRF-049
 ¥2.625 (tax in)



Cryptogam Illusion
 KING RECORDS
 NKCD-3856
 ¥2.000 (tax in)



Brilliant Strams
 KING RECORDS
 NKCD-3855
 ¥2.000 (tax in)



Circle in the Forest
 KING RECORDS
 K32Y-2155
 ¥3.200 (tax in)

Legend of Gold Wind



Asturias AS-0002
2011/4/10発売
2,625円(税込)

アコースティック・アストゥーリアスとしては前作「Marching Grass on the Hii」(avex io)から4年余り、ようやく皆様に新作をお届け出来ることになり感無量です。今作からバイオリニストとしてティセナさんが加入、短い準備期間でしたが素晴らしい集中力で楽曲を習得、アドリブも交えた自らの解釈で曲に新しい命を吹き込んでくれました。もうひとつ特筆すべきは上達著しい筒井さんのリコーダー。様々なタイプの曲で印象的な演奏・音色を披露していますが、リコーダーに対する皆さんの認識を変えてくれるかもしれません。

アルバムのトータルイメージは「大地」「風」。ヨーロッパ～アジア大陸から遠い日本に向け、風に乗せて伝わる文化をイメージし「Legend of Gold Wind(金色の風の伝説)」と名付けました。スケールアップしたアコアス・サウンドをどうぞご堪能下さい！



<Legend>

自分ではそれほど意識していないものの、アストゥーリアス開始当時よりケルト音楽からの影響をよく指摘されます。この曲は伝統的ケルト音楽によくある3連のアップテンリズムを取り入れ、和声・音階も明確に意識して作りました。出来上がってみればピアノのリフ、メロディー、マイナーでしっかり盛り上がりところ等、実にアコアスらしい曲に仕上がったと思います。個人的には間奏の「行き切ってしまう展開」がとても気に入っています(大山)。

<黄源の舞>

陽の光で黄金に輝く草原の中で、太陽と大地への感謝を表す舞を踊っている子供達の様子を思いながら作成しました。冒頭のリコーダーメロの部分、拍子自体はちょっと変則的ですが、誰でも吹けるような、そんな簡単なメロディが乗っています。みんなで吹くと楽しいかも(川越)。

澄んだリコーダーの音色、キャッチーなメロで人気のライブの定番曲。アルバムの中でもポップ(?)な位置づけですが、変拍子でしっかり自己主張しています(大山)。

<ベタ・スプレデス>

ベタは美しく優雅な魚ですが、縄張り意識が強く「闘魚」の名もある。この曲は、リュックベッソン監督の映画の1シーン、ドレスを身にまとった美しい殺し屋たちが水中で戦うシーンにベタが縄張り争いをするシーンをシンクロさせた美しく情熱的な映像からインスピレーションを得て作曲しました。楽曲は、イントロのユニゾンで提示されるテーマが形を変え随所にちりばめられる作りになっています(筒井)。

普段穏やかな印象の筒井さんですが、壮絶な不協和音、情念・哀愁を込めた楽曲で本領発揮！全員で練り上げた入魂の演奏をお聴き下さい(大山)。

<凍てついた記憶>

元々はPCゲーム「Lamento」のBGMとして作曲。イメージは森の中の静寂に包まれた湖水(中国の九寨溝のような感じ?)。いとうかなこさんのスカットが印象的な曲でしたが、アコアス用にバイオリンテーマにアレンジ、シンプルな第2主題を展開させて新たな曲として生まれ変わりました。たおやかな音色が持ち味であるティセナさんのバイオリンが、情感豊かに曲を盛り上げてくれます(大山)。

<Perpetual Motion>

これは前作の「Waterfall」路線に位置する変拍子バリバリのアコアス流”ハード室内楽曲”です。ちゃんとした音楽教育を受けていないもので、和声や対位的に問題があるかもしれませんが(汗)より複雑に、細かいことは気にせず思い切って斬新な展開を狙いました。タイトルを直訳すると「永続する運動」。エッシャーの「無限階段」をイメージしながら作りました(大山)。

<ユハンヌス>

リコーダーというと小学校の音楽の時間を思い出しますが、リハーサル中に筒井さんが吹いているのを聴いているとあり得ない半音階、転調、早いリッパセージなど「こんなことも出来るんだ」と認識を新たにし、ライブで見え場になるようにと作った曲です。あえてピアノを入れない3人編成で素朴・土着的な雰囲気を目指しました。「ユハンヌス」とは北欧の夏至のお祭りのこと(大山)。

<邂逅>

実は20数年前に作った和風メロディーのモチーフをふくらませて作った曲。これもリコーダーを和笛のように聴かせられないか、という発想からスタートしました。純和風にこだわったためA、Bパート共に2つのコードの展開だけで作られています。間奏もひたすら2コード、熱いソロ回しが聴き物です。タイトル「邂逅」は未知のものとの出会いの意。日頃あまり触れることのない「和の世界」との出会いという意味も込めて名付けました(大山)。

<紅蓮菩薩>

元々はPCゲーム「装甲悪鬼村正」のBGMとして作曲。和音階を生かしたハードなロックサウンドでしたが、あえてアコースティック編成にアレンジ。生楽器の細かな息遣いで動と静を目まぐるしく展開させ、「美と狂気」の図式がうまく表現出来たと自負しております。

”和風室内楽プログレ”として世界のプログレファンにアピール出来たら嬉しいです(大山)。

<ルカ組曲>

西方の大草原に暮らす少年ルカをイメージした連作シリーズです。川越さんも参加しているユニット「Musica-e-Novella ~ムジカ・ノヴェッラ(旧・音楽絵ほん)」にて初演。

i. 草原のルカ

冒頭どこまでも広がる草原、楊琴(撥で弦を鳴らすモンゴルの民族楽器)をイメージしたピアノによるD-A-D-Eのバックングの上に、民族的なリコーダーの旋律を乗せ、バイオリンがそれに呼応。後半はルカが馬を速駆けさせ颯爽と登場。馬頭琴をイメージしたバックングのうえにVnとRecの5度ユニゾン。あまり聴いたことのない遠くの国のスケールを想定して作りました。

ii. 星とルカ間に消え

月が雲に隠れ、風で火は消され、夜の間に溶け込んでいくルカをイメージしました。楽曲はシンプルな3部構成で、間に自由に変形できるソロ部分を挟みます。歌曲のように分かりやすい旋律と展開を心がけて作りました(筒井)。

iii. 風の王国

少年ルカ連作集の第1&2楽章の主題を元に、目まぐるしい展開の組曲にすべく、筒井さんとディスカッションしながら第3楽章をアレンジしました。今アルバムのハイライトにふさわしい、実にアコアスらしい組曲になったと思います。筒井さんには近いうちに、違った形で「ルカ連作集」の発表を期待しています(大山)。

<かげろう>

成虫後一週間しか生きられないなかで、つがいを求め精一杯湖水面を飛び、優雅ではない蜻蛉の物語を表しました。冒頭イントロ及びメインメロは、あえて言うなら16分の21拍子、又は8分の10.5拍子の上に成り立っていますが、これは通常の手癖・フレーズ癖から来ているものでもあり、自然な感じになっていると思います。変拍子に詳しい方、それほどでもない方、共に楽しんで頂ければ幸いです。(川越)

川越氏のメロディーメーカーとしての才能が存分に発揮された佳曲。プログレ的には変拍子を売りにはしていますが、ただ流れるような旋律に身を任せてもらえればと思います(大山)。